

NPO 法人 関西木造住文化研究会（略称 KARTH：カース）

平成 26 年度文化庁委託事業「NPO 等による文化財建造物の管理活用事業」

# 木造文化財建造物防災 連続公開研究会

会場 西陣ヒコバエノ家 カミタチウリドオリジョウフク ジ ニシイル（京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632 番地）

参加費 毎回 1,500 円（資料・ドリンク代） 公開研究会終了後、懇親会（会費別途 1,000 円）

最近、地震、台風、豪雨、大雪等が頻発し、木造文化財建造物や伝建地区の被害も多発しています。また、文化財や伝建地区での火災も後を絶ちません。

木造文化財は、この様な災害で被災すると、大きな被害を受け、解体を余儀なくされたり、復旧に著しい負担が必要になったりすることが少なくありません。普段から災害の被災要因やその影響を診断し、経済的にもリーズナブルな被害予防・軽減策を講じることが望まれますが、このような問題については、専門的な実務者が各地にいるわけではなく、文化財建造物の所有者や管理者は、どこにどう相談して良いかもわからないままの状態です。

しかし、木造文化財の災害要因は、一般的な伝統木造と共通点が多いため、伝統木造の防災に詳しい専門家と文化財建造物所有者・管理者、文化財保存に携わる技能者等の間で意見や情報を交換し、協力関係を築いていくことができれば、木造文化財の災害被害は大いに軽減できると思われれます。

関西木造住文化研究会は、これまで、伝統木造の防災性能の向上や再評価を目標に様々な活動を続けてきました。こうした状況の中、木造文化財や伝建地区の防災事業を経験された防災各分野の専門家と協力し、木造文化財建造物の脅威となるあらゆる災害を視野に入れて、平成 26 年度より 2 年間の予定で、「木造文化財建造物総合防災ネットワーク事業」を企画することになりました（平成 26 年度は文化庁委託事業）。本事業は、木造文化財建造物の災害の実態を明らかにし、その対策を検討しながら、防災各分野の専門家と、木造文化財建造物の所有者、管理者、保存団体等との連携・協力関係を築き、全国の木造文化財建造物を災害から守っていくネットワークづくりをしていくことを目的としています。

その一環として、防災の専門家と木造文化財保存の担い手が経験と知恵を持ちよって、木造文化財に適した防災対策を作りだしていくことを目標に、各種防災の専門家を講師とする公開研究会を、平成 26 年 8 月から平成 27 年 2 月までの間に 7 回、開催いたします。

公開研究会は、色々な立場の方が自由に参加できるように、原則として週末の午後に開催します。

木造文化財に関する各種災害の実態・対策事例等についてその分野の専門家に解説して戴いた後、防災や文化財保存の専門家のコメンテータのご意見や講演者との対話を通じて話題を広げながら、参加者から意見・質問を頂きます。合計 3 時間の公開講演会の後、さらに、研究会後の懇親会でのフランクな意見交換を通じて、色々な木造文化財の保存活用にあたっての災害危険やその対策の考え方を探っていきます。

## 公開研究会

第 1 回 8 月 24 日（日）「木造文化財・伝統的建造物の火災とその対策」

講演 長谷見雄二（早稲田大学教授） コメンテータ 北後明彦（神戸大学教授）

第 2 回 9 月 28 日（日）「木造文化財・伝統的建造物の耐震改修」

講演 新谷真人（早稲田大学名誉教授） コメンテータ 林 康裕（京都大学教授）

第 3 回 10 月 25 日（土）「景観要素としての樹木に関する事故と対策」

講演 小泉章夫（北海道大学准教授） コメンテータ 長谷見雄二（早稲田大学教授）

第 4 回 11 月 30 日（日）「伝統的建造物群保存地区の災害事例と防災計画」

講演 池田成介 他（早稲田大学） コメンテータ 室崎益輝（神戸大学名誉教授）

第 5 回 12 月 14 日（日）「木造文化財建造物の雪害と雪対策」

講演 山口一男（白山ろく民俗資料館） コメンテータ 鈴木 有（金沢工業大学名誉教授）

第 6 回～第 7 回 土石流災害などを予定しています。

主催 NPO 法人 関西木造住文化研究会（略称 KARTH：カース）

協賛 公益社団法人 日本建築家協会近畿支部、一般社団法人 日本建築学会近畿支部、一般社団法人 京都府建築士事務所協会、一般社団法人 京都府建築士会、京都左官協同組合

後援 京都府教育委員会、京都市、公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

関西木造住文化研究会 平成 26 年 12 月 14 日(日) 14 時 – 17 時 ( 開場 13 時 )

平成 26 年度文化庁委託事業「NPO 等による文化財建造物の管理活用事業」

## 第 5 回 木造文化財建造物防災 公開研究会 木造文化財建造物の雪害と雪対策

講演 山口一男(石川県立白山ろく民俗資料館館長) コメンテータ 鈴木 有 (金沢工業大学名誉教授)

会場 西陣ヒコバエノ家 (京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町632 番地)

参加費 1,500 円(資料・ドリンク代) 終了後、懇親会を予定しています(会費別途 1,000 円)

近年、日本の広い地域で大雪が起こるようになり、多くの木造文化財建造物が甚大な被害を受けました。富岡製糸場の木造建屋倒壊は広く報道されましたが、例年、それほど雪の多くない地域で大雪となったのがその背景といわれています。しかし、雪国でも、人口減少や空家の増加により、雪下ろし等の雪対策が困難になっている歴史的町並みや木造文化財が少なくありません。落雪、倒木や雪の凍結に伴う建物被害・転倒事故のほか、消火栓・消防進入経路の雪埋没等、各種災害対策の機能が雪によって損なわれるなど、雪の被害は大変、多様です。雪は災害要因としては意識に上り難いきらいがありますが、木造文化財に対する雪の影響が、降雪等の自然現象の後、すぐに顕在化するという性格ではないことも、その一因と思われます。

今回の公開研究会では、日本有数の豪雪地である白山市で、文化財建造物民家 6 棟を有する白山ろく民俗資料館の山口一男館長を講師として、また、金沢工業大学の鈴木有名誉教授をコメンテータとしてお招きし、雪国における木造文化財の雪の備えの伝統や雪害対策をご紹介頂きながら、木造文化財において、雪とどうつきあい、雪対策をどんな仕組みでどのように取り組む必要があるかについて検討いたします。

### 公開研究会の進め方

1. 講師紹介
2. 講演 90 分
3. 質問用紙による質問受付・休憩
4. コメンテータによるコメント・対談 30 分
5. 質疑・討論 40 分

木造文化財・歴史的町並みの雪による被害、その対策について、ご相談のある方は、申し込み時にご相談内容をお知らせ下さい。具体的な建造物・地域に関するご相談の場合は、概要資料を添付して下さい。なお、内容によっては回答できない場合があること、また、固有名詞・個人情報等を外して研究会で事例として紹介させて頂く場合があることは予めご了承下さい。

### 今後の公開研究会

第 6 回、第 7 回は、本事業で行っている調査をもとにテーマを設定いたします。

参加方法 12 月 8 日(月)までに、お名前、所属、電話・FAX 番号またはメールアドレス、懇親会参加の有無を明記の上、下記までお申し込み下さい。

問合せ・事前申込み先 NPO 法人 関西木造住文化研究会 (略称 <sup>カース</sup>KARTH)

TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725

E-mail [info@karth.sakura.ne.jp](mailto:info@karth.sakura.ne.jp) <http://karth.blog13.fc2.com/>

京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632 番地

### 会場アクセス

バス停「今出川浄福寺」、「千本今出川」、「千本上立売」より徒歩約 5 分

JR 京都駅より(所要時間 約 40 分)

地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3 番出口、烏丸今出川交差点の今出川通の東側バス停から西行きバス乗車、「今出川浄福寺」下車  
市バス利用の場合:A3 の 206 番に乗車、バス停「千本上立売」下車、または B2 の 50 番、101 番乗車、バス停「千本今出川」下車

